

本文

- ① あやしがりて、寄りて見るに、筒の中光りたり。 (『竹取物語』)
- ② 三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。 (『竹取物語』)
- ③ 紫だちたる雲の細くたなびきたる。 (『枕草子』)
- ④ おごれる人も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし。 (『平家物語』)
- ⑤ よどみに浮かぶうたかたは、かつ消えかつ結びて、久しくとどまりたるためしなし。 (『方丈記』)
- ⑥ 花、咲けり。 (四段「咲く」の已然形に接続した例)
- ⑦ いみじう降れる雪を、人々に見せたり。 (四段「降る」の已然形に接続した例)
- ⑧ 今は昔、竹取の翁といふ者ありけり。 (『竹取物語』)
- ⑨ 男もすなる日記といふものを、女もしてみむとてするなり。 (『土佐日記』)
- ⑩ 三寸ばかりなる人、いとうつくしうてゐたり。 (『竹取物語』)
- ⑪ つれづれなるままに、日暮らし、硯に向かひて、心にうつりゆくよしなしごとを、そこはかとなく書きつくれば、あやしうこそものぐるほしけれ。 (『徒然草』)
- ⑫ 兵（つはもの）たりし者、今はみな世を捨てて出家す。 (体言に接続した「たり」の例)
- ⑬ 夕日のさして山の端いと近うなりたるに、鳥の寝所へ行くとて、三つ四つ、二つ三つなど飛びいそぐ。 (『枕草子』)
- ⑭ 闇もなほ、蛍の多く飛びちがひたる。 (『枕草子』)

設問

1. 例文①「光りたり」の「たり」について答えよ。
 - (1) この「たり」は何の助動詞か（基本形で答えよ）。
 - (2) 直前の「光り」は動詞「光る」のどの活用形か。
2. 例文①「光りたり」の「たり」の活用形（基本形・連用形…のどれか）を答えよ。
3. 例文①「筒の中光りたり」を現代語訳せよ。
4. 例文②「ゐたり」について答えよ。
 - (1) 直前の「ゐ」は動詞「ゐる」のどの活用形か。
 - (2) この「たり」の活用形を答えよ。
5. 例文③「紫だちたる雲」「たなびきたる」の二つの「たる」は、それぞれ「完了」「存続」のどちらの意味でとるのが自然か答えよ。
6. 例文④「おごれる」の「る」について答えよ。
 - (1) この「る」は何の助動詞か（基本形で答えよ）。
 - (2) ここでの意味は「完了」「存続」のどちらか。

7. 例文④「おごれる」は、四段動詞「おごる」に助動詞「り」が付いた形である。「おごる」のどの活用形に付いているか、活用形の名称で答えよ。
8. 例文④「おごれる人も久しからず」を現代語訳せよ。
9. 例文⑤「久しくとどまりたるためしなし」を現代語訳せよ。
10. 例文⑦「いみじう降れる雪」を、「る」を存続の意味にとって現代語訳せよ。
11. 例文⑧「ありけり」のラ変動詞「あり」の連体形は「ある」である。この「ある」は、「あり」に存続の助動詞「り」が付いた形と言えるか。「り」の接続の決まりに触れて、「言える／言えない」で答えよ。
12. 例文⑨「すなる日記」の「なる」は、助動詞「り」とは無関係の助動詞である。これは何の助動詞か（伝聞・推定／断定のどちらか）を答え、そう判断できる理由（直前の語の活用形）も書け。
13. 例文⑩「三寸ばかりなる人」の「なる」は何の助動詞の連体形か。完了の「り」とまぎらわしい「に＋あり」由来のこの語の名称を答えよ。
14. 例文⑪「書きつくれば」の「書きつくれ」は四段動詞「書きつく」の已然形である。この「書きつくれ」に存続の助動詞「り」を付けて連体形にすると、どのような形になるか答えよ。
15. 例文⑥「咲けり」、例文⑦「降れる」で、助動詞「り」が「咲け」「降れ」という形に付いているのはなぜか。接続の決まりにふれて説明せよ。
16. 助動詞「り」が接続できるのは、どの活用の種類のどの活用形か。決まり（いわゆる「サ未四已」）を説明せよ。
17. 助動詞「たり」は活用語のどの活用形に接続するか、活用形の名称で答えよ。
18. 助動詞「り」の活用は何活用型か。また、その活用を「ら・り・り・る・れ・れ」の順にならって、未然形から命令形まですべて平仮名で書け。
19. 完了・存続の「り」と、断定の「なり」（「に＋あり」由来）を識別するときの着眼点を一つ、簡潔に説明せよ。
20. 例文⑫「兵たりし者」の「たり」は、例文①～⑤の存続「たり」とは別の助動詞である。
 - (1) これは何の助動詞（意味）か。
 - (2) 存続の「たり」と断定の「たり」を見分ける着眼点（接続のちがい）を簡潔に説明せよ。
21. 助動詞「たり」「り」が表す二つの意味を、それぞれ訳語（「～た」「～ている」など）を添えて答えよ。